

令和 3 年度事業報告

一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構



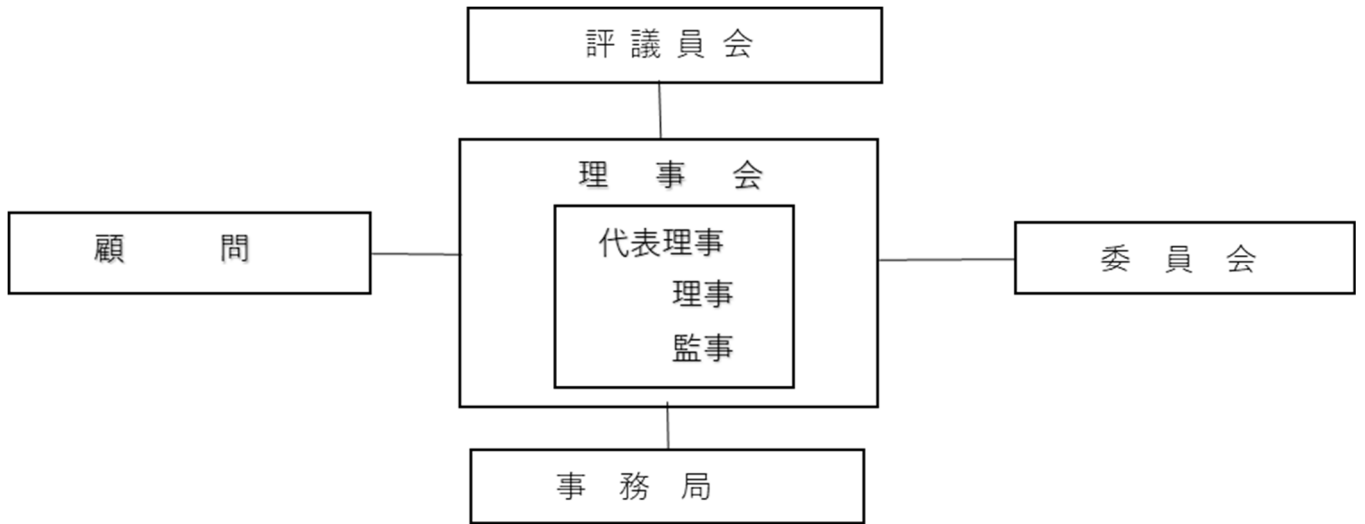
目 次

- 1 令和3年度 一般報告
 - (1) 組 織（評議員、役員、顧問、委員会、事務局）
 - (2) 賛助会員
 - (3) 会 議 等
 - (4) そ の 他

- 2 令和3年度 事業報告
 - (1) 情報発信・広報に関する事業
 - (2) 啓発活動に関する事業
 - (3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業
 - (4) 防災に関する事業
 - (5) その他（受託事業）

1. 令和3年度 一般報告

(1) 組織



ア 評議員

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
評 議 員	非 常 勤	海 輪 誠	一般社団法人東北経済連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	鎌 田 宏	東北六県商工会議所連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	千 葉 嘉 春	東北建設業協会連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	渥 美 雅 裕	一般社団法人東北地域づくり協会 理事長

イ 理事・監事

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
代 表 理 事	非 常 勤	今 村 文 彦	東北大学災害科学国際研究所所長
理 事	非 常 勤	涌 井 史 郎	東京都市大学 特別教授
理 事	非 常 勤	片 岡 俊 一	弘前大学 教授
理 事	非 常 勤	南 正 昭	岩手大学 教授
理 事	非 常 勤	小 沢 喜 仁	福島大学 教授
理 事	非 常 勤	徳 山 日 出 男	政策研究大学院大学 客員教授
理 事	非 常 勤	紺 野 純 一	一般社団法人東北観光推進機構専務理事
理 事	非 常 勤	吉 田 圭 吾	一般社団法人日本旅行業協会東北支部長
理 事	非 常 勤	岡 前 憲 秀	青森県県土整備部長
理 事	非 常 勤	戸 舘 弘 幸	岩手県復興局長
理 事	非 常 勤	佐 藤 達 哉	宮城県震災復興・企画部長
理 事	非 常 勤	橘 清 司	福島県企画調整部長
理 事	非 常 勤	梅 内 淳	仙台市まちづくり政策局長
監 事	非 常 勤	高 田 佳 幸	日本政策投資銀行 東北支店長
監 事	非 常 勤	安 野 賢 吾	河北新報社防災・教育室 部長

ウ 顧 問

役 職	職 名	氏 名
顧 問	青 森 県 知 事	三 村 申 吾
顧 問	岩 手 県 知 事	達 増 拓 也
顧 問	宮 城 県 知 事	村 井 嘉 浩
顧 問	秋 田 県 知 事	佐 竹 敬 久
顧 問	山 形 県 知 事	吉 村 美 栄 子
顧 問	福 島 県 知 事	内 堀 雅 雄
顧 問	仙 台 市 長	郡 和 子
顧 問	学 都 仙 台 コ ン ソ ー シ ャ ム 会 長	加 賀 屋 豊
顧 問	東 北 地 方 整 備 局 長	稲 田 雅 裕
顧 問	東 北 運 輸 局 長	田 中 由 紀

エ 委員会

伝承ロードアドバイザー委員会		
役 職	職 名	氏 名
委 員 長	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐 藤 翔 輔
委 員	一般社団法人東北観光推進機構 専務理事	紺 野 純 一
委 員	一般社団法人日本旅行業協会 東北支部長	村 上 晃 史
委 員	青森県県土整備部 都市計画課長	今 井 健
委 員	岩手県復興局副局長 兼震災津波伝承 課総括課長	大 坊 哲 央
委 員	宮城県震災復興・企画部 震災復興推進課長	田 代 浩 一
委 員	福島県土木部 土木企画課長	矢 澤 敏 幸
委 員	仙台市まちづくり政策局 震災復興メモリアル事業担当課長	佐 藤 裕 大
委 員	東北地方整備局 企画部長	角 湯 克 典
委 員	東北運輸局 観光部長	小 野 協 子

オ 事務局

住所	〒980-0014 仙台市青葉区本町三丁目 2-26
人員	事務局長 1 名、職員 4 名 計 5 名

(2) 賛助会員

区分	会 員 数			口 数		
	令和 3 年度	令和 2 年度	増減	令和 3 年度	令和 2 年度	増減
法人会員	17	14	増 3	23	18	増 5
個人会員	65	53	増 8	154	207	減 53

(3) 会議

ア 評議員会

区 分	開催日、開催場所	議事の内容
第 1 回臨時	令和 3 年 5 月 7 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】 理事の選任 3 名の理事更新手続き
第 1 回定時	令和 3 年 6 月 18 日 ホテルメトロポリタン仙 台	【第 1 号報告】 令和 2 年度 事業報告 (1) 一般報告 (2) 事業報告 【第 1 号議案】 令和 2 年度 計算書類の件 (1) 計算書類 (2) 監査報告 【第 2 号報告】 令和 3 年度 事業計画及び収支予算書 (1) 事業計画 (2) 収支予算書 【第 3 号報告】 令和 3 年度 理事選任の件 理事選任の件 【第 2 号議案】 令和 3 年度 役員選任の件 役員任期満了に伴う選任の件

イ 理事会

区 分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 3 年 6 月 4 日 仙都会館	【第 1 号議案】 令和 2 年度事業報告及び計算書類の件 【第 2 号議案】 顧問の委嘱について 【第 1 号報告】 理事後任の選任について 【第 2 号報告】 映像アーカイブ事業について
第 2 回	令和 4 年 3 月 30 日 ホテルメトロポリタ ン仙台	【第 1 号議案】 令和 4 年度 事業計画 【第 2 号議案】 令和 4 年度 収支予算書 【報告事項】 財政基盤について

ウ 委員会等

1. 伝承ロードアドバイザー委員会

令和 3 年度は開催しませんでした。

ただし、令和 4 年 5 月 18 日に令和 3 年度に実施した伝承ロード研修会や受託事業におけるツアーなどのアンケート結果を基に開催することとしています。

開催予定は下記のとおりである。

区分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 4 年 5 月 18 日 仙都会館	(1) 伝承ロード研修会や受託事業におけるツアー等のアンケート結果 (2) 令和 3 年度 震災伝承ネットワーク協議会の開催報告 (3) 情報提供

2. その他

機構が主催した主な会議やイベントは下記のとおり。

開催日、開催場所	取組項目	概要等
1) 令和3年6月23日 NTT 東日本青葉通ビル 1F スマートイノベーションギャラリー	第1回「映像アーカイブ事業」 映像試写会及び認定証交付式	概要：映像アーカイブ事業の第1回目の認定作品2本の試写会と認定証交付式を実施 ○第001号認定作品 大成ロテック(株) 「第二の水素爆発を避け」 ○第002号認定作品 (株)武山興業 「地元を守れ！」
2) 令和3年10月21日 仙都会館	令和3年度インフラ語り部説明会 参加者数 応募のあった語り部希望者 25名 来賓：国土交通省東北地方整備局 角湯企画部長 (代理佐野震災伝承推進官)	概要：建設関係業務に従事した役所や企業のOBを対象に東日本大震災の復旧・復興等における貴重な体験や知見を語り継ぐインフラ語り部の確保を目的とした説明会 ○説明事項 ・3.11 伝承ロード推進機構の活動について ・語り部(インフラ部門)の活動について ・今後の活動 ○意見交換

<p>3) 令和3年11月15日 みやぎ東日本大震災津波 伝承館</p>	<p>防災・伝承セミナーin 宮城 (オンラインセミナー) Web 参加者 510 名</p>	<p>概要：「これからの震災伝承の取組について」～震災から10年、これから求められる震災伝承とは何か～をテーマに開催 次第 ○挨拶 村井嘉浩宮城県知事 ○基調講演 演題「賑わいの創出」 講演者 東北大 平野勝也先生 ○パネルディスカッション テーマ「これからの震災伝承」 ・コーディネーター 東北大 佐藤翔輔先生 ・パネラー 5名 石巻市長 齋藤正実氏 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館長 佐藤健一氏 宮城県復興支援・伝承課長 田代浩一氏 東北大災害科学国際研究所 マリエリザベス先生 SAY'S 東松島代表山縣嘉恵氏</p>
<p>4) 令和3年11月18日 仙都会館</p>	<p>インフラ語り部研修会 語り部 11名 参加</p>	<p>概要：語り部の実戦に向けて効果的な伝え方など、インフラ語り部対象者向けに研修会を実施 ○講師 通訳案内士 玉田千恵 ・講習 ・ワークショップ</p>

(4) その他（寄付金の受入について）

次の各団体等から寄付金によるご支援をいただきました。

区 分	次 第 等
令和3年度	寄 付 金 (一社)道路建設業協会 外 13 法人(団体を含む) (※ 別添資料参照)

2. 令和3年度 事業報告

(1) 情報発信・広報に関する事業

イ ホームページの充実強化

ホームページは、組織発足直後の令和元年9月に立ち上げ、より見やすくわかりやすく、多くの方に視聴できるように、令和2年度に英語版やスマートフォン対応やFacebookの開設を行った。令和3年度においては、archiveやmovieサイトの追加とともに、コロナ禍における震災伝承施設の閉館情報などタイムリーな情報提供に努めた。

ロ 伝承ロードマップの更新等

伝承ロードマップは、震災伝承施設の増加を踏まえ7月に更新を行い、速やかに震災伝承施設等に配布した。1月以降から中国語版(繁体語版)の作成を実施した。

また、3.11伝承ロードファン向けに、第3分類震災伝承施設や食や祭り等の観光資源をイラスト化したマップについては、大変好評で岩手県、宮城県、福島県版は施設数の増加に対応して更新を行った。被災地への訪問機会の増加と滞在期間の延長に資するようにした。英語版も同時に作成した。

ハ 機関誌、メルマガの発行 他

機関誌は、「人と人を繋ぎ、被災地を結ぶ。」ことを狙いとして、人から人へ伝える「縁」が大切との観点から、人の縁を中心に据えて、震災伝承施設の取り組みや、伝承活動を紹介する機関誌を12月に刊行した。年4回の発刊する季刊紙としている。配布先は、震災伝承施設、賛助会員、寄付者、道の駅、東京のアンテナショップ等3千部配布している。

メルマガについては、当機構の取り組みや伝承活動、伝承ロード研修会などの開催、防災・伝承セミナーやパネル展示等の予定などを、機構関係者、賛助会員、寄付者、語り部等約220人に対して配信している。

ハ ラジオによる広報活動

ラジオによる広報活動としてラジオ番組を作成し、放送した。目的は東日本大震災の風化防止及び防災力向上として、被災4県（青森、岩手、宮城、福島）のラジオリスナー向けに震災から10年を経た今、東日本大震災の真実や教訓を振り返る番組を作成し、2月～3月第1週まで5回の番組を制作報道した。

ホ 活動紹介映像、パネルの作成

活動紹介映像については、受託事業の中で震災伝承施設や伝承ロードバスツアーのプロモーション映像を作成したことから、それらの活用を図った。

また、パネル展示などの啓発活動で使用する活動状況等のパネル作成を行った。

(2) 啓発活動に関する事業

イ 国際会議のブース出展

（国際津波シンポジウム、世界地震工学会議）

○国際津波シンポジウムは、第30回を迎え、令和3年7月1日（木）～7月3日（土）にかけて、東北大学災害科学国際研究所の1階を会場に実施した。主催は第30回国際津波シンポジウム実行委員会。

コロナ禍にあって現地出展とオンライン出展のハイブリッド形式で開催
現地（ブース出展）とオンラインの双方に参加した。

○世界地震工学会議は、昨年からの延期になっていたもので、令和3年9月27日（月）～10月2日（土）の5日間かけて、仙台国際センターを会場に開催されました。主催は公益社団法人日本地震工学会。

ここでも国際津波シンポジウム同様に現地出展とオンライン出展のハイブリッド形式で開催され、現地（ブース出展）とオンラインの双方に参加した。

ロ パネル展示の実施

3.11 伝承ロードの周知と理解促進とともに、東日本大震災の記憶や経験を忘れずに後世に伝承するため、東日本大震災の実情と教訓等を紹介するパネル展を震

災伝承施設や他の記念館等で実施した。令和3年度は5箇所、延べ114日間、4千人を越える見学者があった。

ハ 防災・伝承セミナーの開催

3.11 伝承ロードの取り組みや震災伝承の意義や役割を広く伝えるために、令和2年度から被災4県持ち回りで防災・伝承セミナーを開催している。令和3年度は第2回目として、11月15日（月）に宮城県石巻市にある南浜復興祈念公園内のみやぎ東日本大震災津波伝承館を会場に開催した。コロナ禍の影響を考慮し、オンライン開催した。490名もの聴講者があり、大変盛況だった。

（3） 防災・伝承ツーリズムに関する事業

イ 企業・団体向けの伝承ロード研修会の実施

東日本大震災の被災地にある震災伝承施設や復興状況等を巡り、震災の実情や教訓を学ぶ企業・団体向けの研修を令和元年度から伝承ロード研修会として実施しているが、令和3年度は15件の研修会の申込みがありましたが、新型コロナウイルス感染防止対策として蔓延等防災対策措置期間が長く続き、10月以降から6団体8件の研修会を開催した。

ロ 旅行業者との連携

旅行業者の知恵やノウハウを活用し、震災伝承施設等に多くの来訪者を迎えるために、仙台市内の旅行業者等で構成する伝承ツーリズム連絡会を令和2年度に立ち上げた。

令和3年度は3回開催し、令和2年度の事業報告やオンライン学習プログラム、観光庁や宮城県の受託事業の紹介などについて意見交換を図った。

ハ インフラ語り部制度の構築

東日本大震災の対応やインフラの復旧等の経験等を語り継ぐため、企業や行政等のOBを対象とした語り部制度を令和2年度から構築している。これまで約46名が登録。令和3年度においてインフラ語り部としてのスキルアップのための

研修会を実施した。

ニ 学生向けスタディツアーの検討

学生向けスタディツアーの検討の一環として、川崎町立富岡中学校を対象としてオンライン防災学習プログラムを実施した。実施にあたっては、本社が川崎町にある(株)タケヤ交通と NTT 東日本宮城事業部の協力のもと、富岡中学校をモニターとして実施。

プログラムの特徴は、被災地の震災伝承施設（山元町震災遺構中浜小学校）を学びの場として、事前学習をオンラインで行い、その後に現地学習としてリアルに震災伝承施設に出向いて学び、最後に振り返り学習として発表会を行う方法。

このプログラムをモニターとして協力いただいた富岡中学校では大変評価が高く、参加した中学生からも感謝の声が届いている。

（４） 防災に関する事業

イ 東日本大震災 10 周年企画 映像アーカイブ事業

令和 2 年度から震災の記憶・記録の見える化の一環として、東日本大震災の復旧・復興で活躍した建設業界の働きを震災のレガシーとして残すために「映像アーカイブ事業」を行っている。震災直後の道路啓開や津波の排水作業などは、警察・消防の人命救助以前の緊急作業として行い、孤立した避難所への緊急物資の輸送にも大きな貢献を果たした。また、過去に例を見ないスピードで復旧・復興事業に尽力した建設業界の働きは、様々な知見や技術を駆使して行ったもので、震災から 10 周年という節目を契機に、これらの活動を可視化し、映像に編集し建設業界の社会貢献を明らかにする事業である。

令和 2 年度は 3 本の映像を作成し、令和 3 年度においては、そのうち 2 本の試写会及び認定証交付式を行うとともに、制作依頼があった 5 企業・団体からの映像を作成している。

ロ 震災伝承施設のデータベース

震災伝承施設は、第 3 分類施設でも既に 50 を超え、展示の内容や形態、開館状

況、施設の特徴は多種多様となっている。また、一般の方からの震災伝承施設に関する問い合わせもあることから、これらの施設に関する情報を正確に把握し、的確に検索できるようにデータベースを構築している。令和3年度において、データの追加や修正を行い、利便性の向上に努めている。

(5) その他事業（受託事業）

イ 観光庁補助事業「台湾における訪日プロモーション事業」

令和2年度に引き続き、令和3年度においても台湾の防災意識が高い層をターゲットとして、仙台市以南の被災地を中心にメディアの招請、旅行会社招請、オンラインによる現地セミナーの開催を通じ、東北の太平洋沿岸地域における歴史・伝統文化、雄大な自然景観と合わせ、震災伝承施設等での生命・防災に対する学びについて発信・訴求し、認知度向上と誘客を図る事業を行った。

ハ 宮城県委託業務「石巻地域周遊型伝承バスツアー造成及び催行業務」

東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災発生から10年の節目を契機としたバスツアーを実施することで、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んでいる観光需要を喚起するため、マイクロツーリズムに焦点をあて、県内在住者に近場の魅力を再発見してもらいながら旅行を楽しんでいただくとともに、震災伝承を図ることを目的に、仙台駅を発着地として、女川町、石巻市、東松島市にある震災遺構や伝承施設を周遊する伝承ロードバスを定期運行。被災地への誘客を行い、語り部の活動の活性化を図る事業を行った。

ロ 観光庁受託事業「地域の観光の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」採択事業「1泊2日伝承ロードバス事業」

「風化させてはならない教訓をしっかりと学び、新たな防災意識社会を醸成する」ことを狙いとして、これまでと異なる防災ツーリズムプログラムを開発し提供する。伝承ロードバスの定期化を目指し、被災地への誘客を図り、交流促進による地域活性化とともに、語り部の価値を高め、語り部の産業化に向けた取り組みをおこなった。